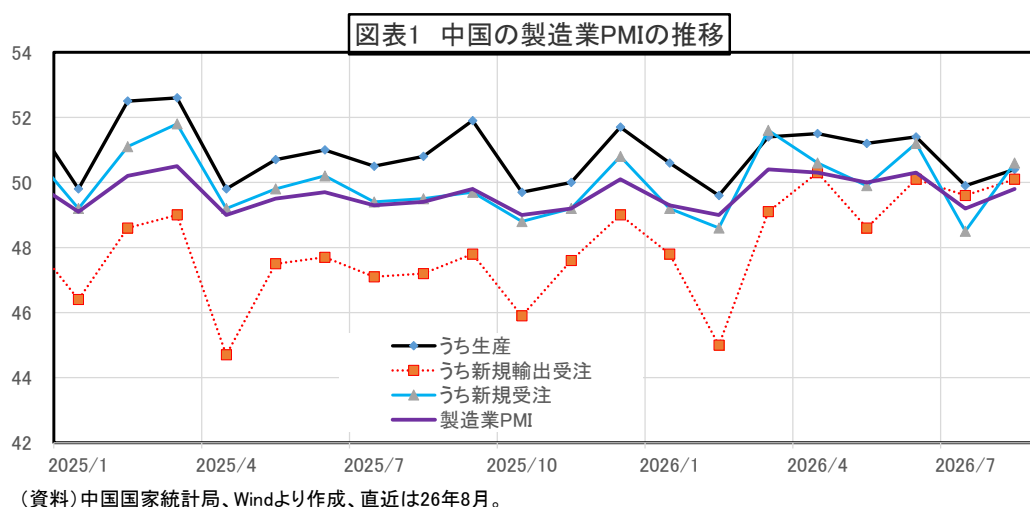
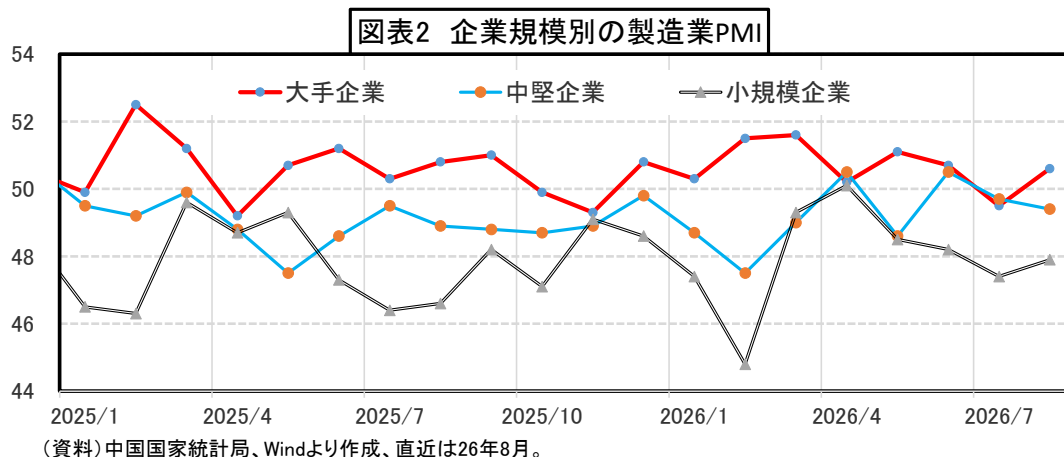


(中国)8月の企業マインドは製造業を中心に小幅改善

政策効果や異常気象による影響の緩和により、8月の企業マインドは全体として小幅回復した。中国国家统计局が発表した2026年8月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は49.8となり、2か月連続で景況感判断の分岐点である50を下回ったものの、7月から0.6ポイント上昇した(図表1)。

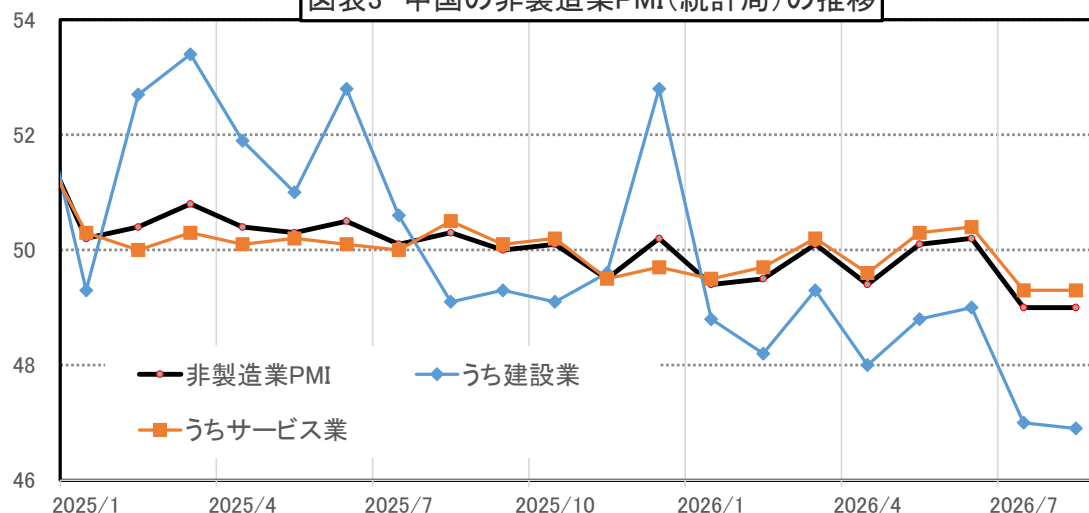


製造業PMIが小幅回復した背景には、8月も高温や台風・豪雨の影響があったものの、7月に比べて製造業の生産・販売活動への悪影響が緩和したことがある。また、7月30日に開催された政治局会議で示された方針を受け、8月には内需拡大策の効果が始まっていることが挙げられる。新規受注指数と生産指数はそれぞれ50.6、50.4といずれも50を回復し、特に新規輸出受注指数は50.1へ上昇し、外需に持ち直しの動きがみられる。ただし、大手企業は50を上回った一方で、中堅企業と小規模企業はそれぞれ49.4、47.9と50割れのままであった(図表2)。



また、価格動向をみると、中東情勢の再度の緊迫化に伴う国際原油価格の上昇や、鉱物・石炭価格の上昇を受け、主要原材料の購買価格は 56.6 となり、7 月から大幅に上昇した。この影響は川下企業にも波及し、製品出荷価格は 50.4 へと上昇したが、購買価格との差がさらに拡大しており、中小零細企業の収益環境を悪化させる可能性が高い。

図表3 中国の非製造業PMI(統計局)の推移



(資料)中国国家统计局、Windより作成、直近は26年8月。

非製造業 PMI は 49.0 と 7 月から横ばいであった(図表 3)。業種別にみると、高温・豪雨の影響により、観光などのサービスは 49.3 と低調であった。ただし、AI 関連需要で情報サービスなどの分野が好調さを維持しているほか、夏季休暇期間中に実施された消費促進キャンペーンがサービス全体を一定程度下支えした。また、建設業も天候要因や不動産投資の大幅減少を背景に 46.9 と 7 月の 47.0 からさらに悪化した。

総じて、8 月の企業マインドは依然として弱い内需を背景に低水準が続いているものの、異常気象による影響の緩和や政策効果の発現を背景に小幅改善した。こうしたなか、8 月末、中国人民银行・国家金融監督管理総局は不動産向け貸出管理に関する政策文書を相次ぎ公表した。証監会も不動産企業の社債発行などを支援する措置を発表したほか、住宅都市農村建設部、自然資源部、金融監督管理総局は住宅販売制度の見直し方針を示すなど、不動産市場の安定化に向けた措置を相次ぎ打ち出した。

さらに国家発展改革委員会は全国投資推進会議を開催した。会議では、「両重(国家戦略の実施および重点分野の安全保障能力向上)」建設および中央予算内投資プロジェクトに対する進捗管理・監督を強化し、地方政府特別債(専項債)の発行・活用を加速するとともに、政策金融ツールによる資金供給を加速することが強調された。さらに、「第 15 次五カ年計画」における重大プロジェクトの実施を加速し、早期に実物投資成果を形成することが求められた。これを受けて各地方でも関連会議が開催され、26 年の成長目標の達成を改めて強調した。

当面企業マインドは緩やかな回復が続く可能性が高いが、不動産支援策の効果の発現状況や、追加的景気刺激策が打ち出されるかどうか今後の焦点となろう。